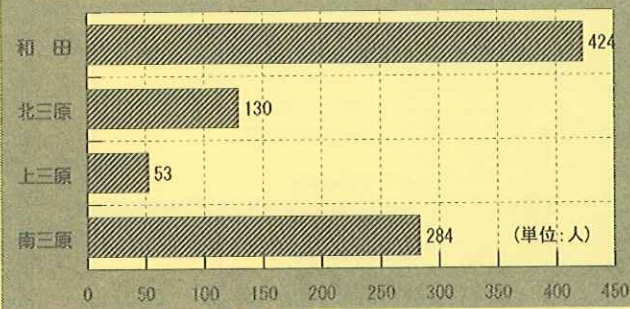


地域の皆様の大きなご協力が得られました。

そして、アンケートの集計がほぼまとまりました。

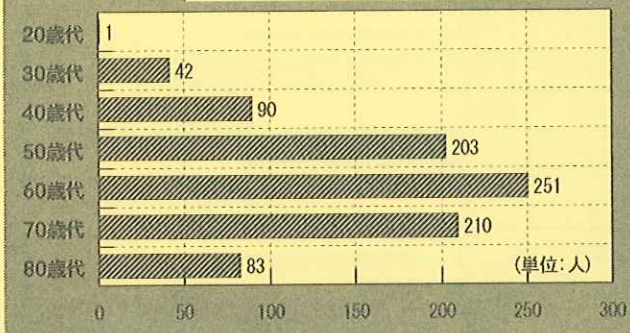
【グラフ1】 アンケートの地区別回答数



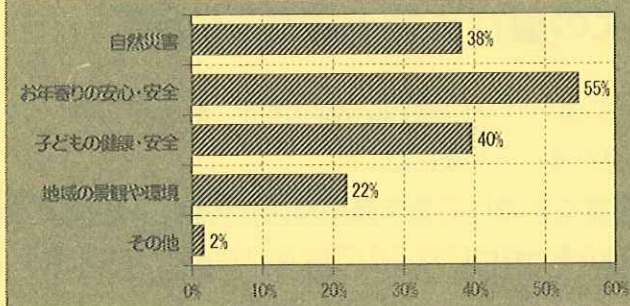
「安全づくりの一員」という意識に立つ建設的なもので、和田地域づくり協議会「WAO!」の活動にとって大変参考になるものでした。

特に、お年寄りに係わる安心・安全に関心が高いことがわかります

【グラフ2】 アンケートの年代別回答数



【グラフ3】 安心・安全 全体に係わる関心事



年代や地域により、関心事のちがいの!

全体的に見ますと地域の皆様の関心事は、【グラフ3】のように、『お年寄りの安心・安全』を筆頭として『子どもの健康・安全』『自然災害』という順になっています。

そして、【グラフ4】や【グラフ5】のように地域や、年代により、関心事の優先順位が、少しずつ異なるという結果が出ています。

まず、和田地域の全戸数1852に対し、【グラフ1】のように、約900のアンケートが回収されたことをお知らせします。回収率は、ほぼ50%以上のようです。

このことから、地域の皆様の安心・安全への関心の高さを、改めて知ることとなりました。

また、記述欄にも多くの皆様が、身近な事例やご意見を書いて下さいました。その殆どが「自分も地域の安心

『安心・安全アンケート』へのご協力ありがとうございました

NO.1

【グラフ1】と【グラフ2】の数字の単位は『人』ですが、【グラフ3】以降の数字の単位は『%』となります。

地域や性別、年代によりそれぞれ分母数が違うために割合での表示としています。

なお、1人の方が2つの項目に○をつけていますので、それぞれの合計は100%ではなく200%となります。

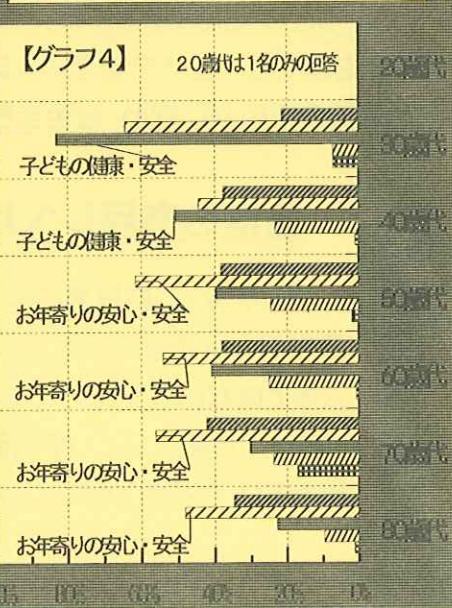
左の【グラフ2】のように、アンケートには多くのご高齢の方々が協力して下さいました。

そして、記述欄にも積極的にアイデアやご意見を書いて下さいました。

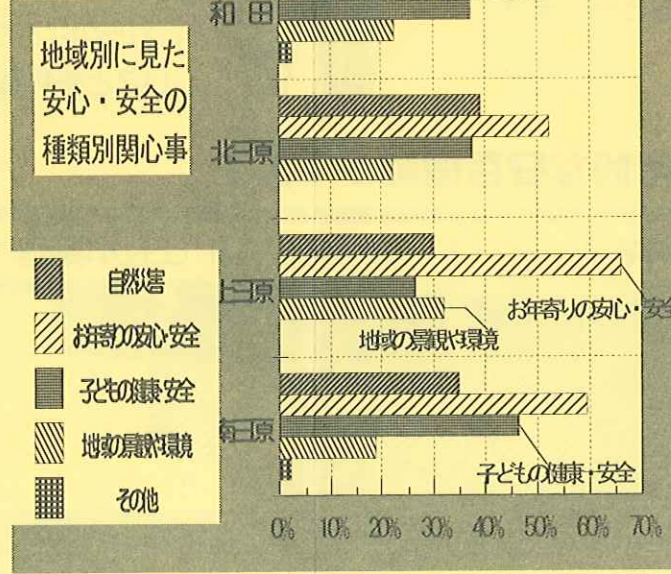
このことから、和田地域のご高齢の方の多くが、現在の状況に不安を持っていたり、改善意見を持っていたりすることがわかります。

加えて、女性の回答者が53%と、全体の半数を超えたことも付け加えさせていただきます。

年代別に見た安心・安全の種類別関心事



【グラフ5】 地域別に見た安心・安全の種類別関心事



分析・考察は 次のように行いました

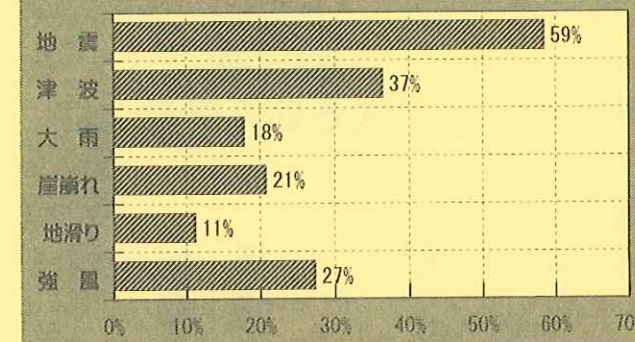
4つの柱『自然災害』『お年寄りの安心・安全』『子どもの健康・安全』『地域の景観や環境』について、全体はもちろん、地域や性別、年代別等の視点からも覗いてみました。記述部分も、それに倣い3つの視点に並べ替え、それぞれ対応させて数字だけの分析に終わらないよう配慮しました。以下、4つの柱に基づいた分析・考察を書かせていただきます。

自然災害に係わる安心・安全について

地震に伴う災害が最も心配!

【グラフ5】の「和田地域全体の自然災害に係わる関心事」を見

【グラフ6】 和田地域全体の自然災害に係わる関心事



てみますと「地震」「津波」「強風」という順に高い関心があることがわかります。

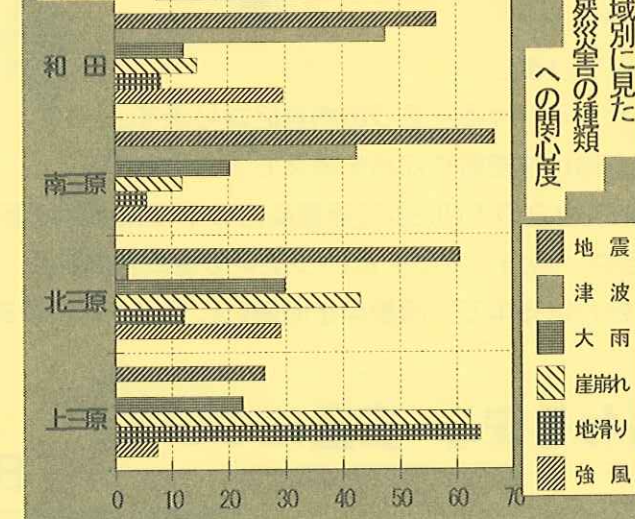
特に、「地震」については、約6割の方々が関心を持っています。最近の世界的な巨大地震の多発による不安も、それに拍車をかけていると考えられます。

地域別に見てみますと和田、南三原地区では「地震」「津波」に関心が高く、北三原・上三原では「崖崩れ」「地滑り」に関心が高くなっています。

そこに、海岸線を持つ地域と山間の傾斜地を持つ地域との差が表れました。

一方、年代別、男女別に見ても、両者とも「地震」に対して全て50%以上、「津波」に対して40%前後と、他の災害に比べて関心度は圧倒的に高くなっています。

【グラフ7】 (単位:%) 地域別に見た自然災害の種類への関心度



「津波」も「崖崩れ」「地滑り」も地震に付随して起こりえる災害であることを考えると、和田地域の人々にとって自然災害に係わる最大の関心事(心配事)は、「地震とそれに伴う災害」であると言えます。

そして、海岸線と山間傾斜地の両方を抱える和田地域では、「地震」に対する防災体制はもちろん、それに伴う2次的災害・3次的災害に対する地域の実状に即した防災体制を考え、作り上げていく必要があると言えます。

自然災害に係わる安心・安全について

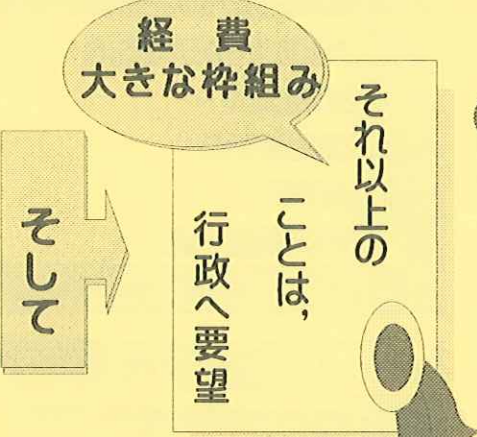
次のような具体的な提言もいただきました

アンケートの記述欄に「市民レベルでできるアイデア・ご意見をお寄せ下さい」と書かせていただきました。するとそこに、100件以上のお考えをお書きいただきました。身近なご意見から拾ってみますと

- ① 自分のことは自分で対処する習慣をつくる。
- ② 家族で日頃から避難場所を話し合っておく。
- ③ 長期外出の時などは、隣近所に知らせておく。
- ④ ひとり暮らしのお年寄りの方は、近所の2~3軒に何かあった時に連絡する病院や親戚の電話番号を覚えておく(1軒だとその人が連絡場所にいない場合、連絡がつかないので)。
- ⑤ お互いに声をかけ合う。
- ⑥ 声をかけ、一緒に避難する。

等があり、更には

- ① 避難訓練の実施
- ② 避難場所の再確認と整備
- ③ 実状を知らせるイベント(説明会・学習会)等の実施
- ④ 地区連絡網の作成
- ⑤ 地域への危険箇所の周知



等の、体制づくりにまで意見は及んでいました。

また、実状も書かれていました。大きく分けると2つの内容になります。

1つ目は、過去の被災経験や伝聞を通じた知恵や知識を教えて下さるもの。

2つ目は、過疎化・高齢化が進む中で[自立の大切さ]と[避難能力の不安]の両者を訴えるもの。

これらから私達は、「自分の安全は、自分で守る」という防災の基本を踏まえ、地域の方々が求める防災の仕組みと地域の現状とをすり合わせる中で、改善点を明確にしていく必要があると考えます。

お年寄りに係わる安心・安全について

今回の安心・安全アンケート全体の中で最も関心の高かったことが、「お年寄りの生活の安心・安全を守ること」でした。これは高齢化が進む南房総市和田地域においては、当然の結果とも言えます。

その中では【グラフ8】で分かるように、「日常的に安否確認をする仕組みを作ること」が、最も高い関心事であることが分かりました。

記述を見てみると、「声かけといったような隣近所の協力が大切」との意見が多く、中には「地図上に空き家、一人暮らしの方を



『安心・安全アンケート』
へのご協力
ありがとうございました



ノ 印し、区の役員が把握し、班長との連絡を密にして日常的に安否確認をする仕組みを作りたい」という積極的な意見もありました。

NO.2

地域や年代によって、多少の違いが見られます

見てみると、「通院や外出の支援をする」ことに対して、上三原地区においてそれが強く表れています。

記述には、「外出支援バスの運行、買い物し支援を行政に要望する」「ボランティアによる送迎を」といった意見がありました。

また、年代別に見てみると、【グラフ10】のように「簡単に外部へ緊急連絡できる手段を作る」ことをに対し、年代が高くなるにつれ徐々に関心が大きくなる傾向があります。

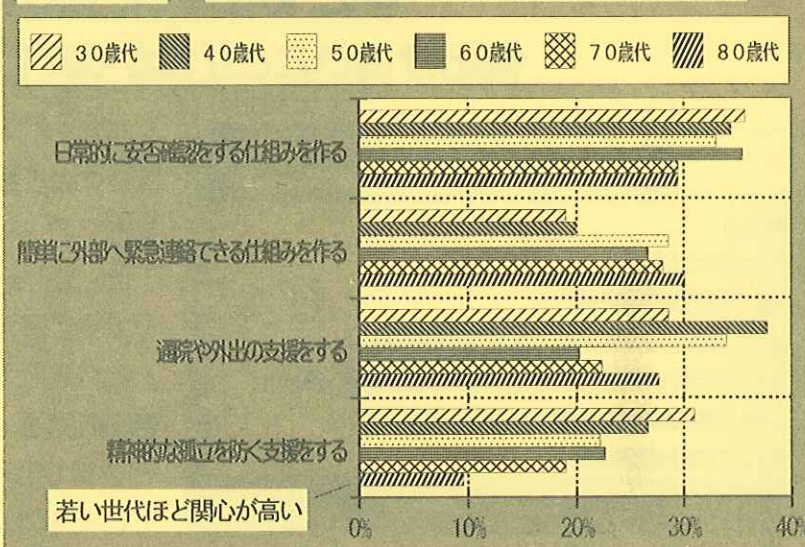
これは、年齢が進むにつれ大きくなる体の不自由さが関わっていると考えられます。

また、障害を抱えた高齢の方、独居の高齢の方などの切実な思いが表れていると考えられます。

【グラフ9】 地域別に見たお年寄りの安心・安全に係わる関心事



【グラフ10】 年代別に見たお年寄りの安心安全に係わる関心度



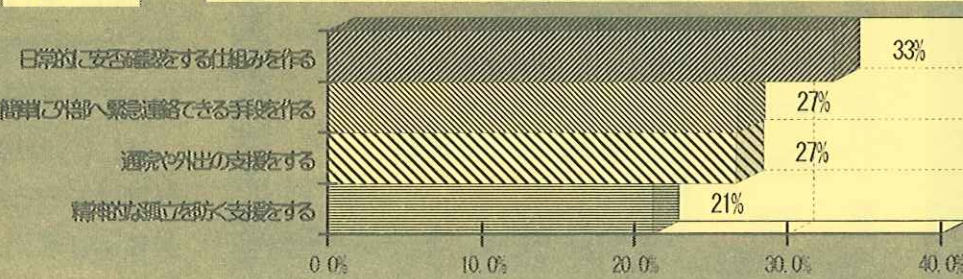
若い世代は、交流を通しての孤立支援を考えています

一方、「精神的な孤立を防ぐ」ことについては、若い世代ほど関心が高い傾向にあります。その中には、「同世代の交流の場、子どもたちとの交流の場を作る」という意見が多くありました。

これらのことから、子ども達や若い世代を巻き込んだ「日常的な声かけに始まる地域交流の輪」「みんなが楽しいことを共有できる交流の機会」が、安心・安全まちづくりのきっかけになるのではないかと考えられます。

日常的な安否確認が1番！

【グラフ8】 お年寄りの安心・安全に関わる関心事 (上位4項目まで)



日常の市民レベルの活動が お年寄りの安心・安全を！

アイデア・ご意見欄には117件の書き込みがありました。実際に困っているという事例の記述もありましたが、まずは「日常的な声掛け」や「ちょっとした訪問などが大事ではないか」というご意見が目立ちました。

また、「仕組みづくりや活動参加の機会があれば自分も何かをしたい」というご意見もあり、今後の地域づくりを考える上で期待の持てる結果だと考えます。

※ 「子どもの健康・安全」「地域の景観や環境」は、次号で報告します。